

2009年 リリア音楽ホールにて 自民党川口支部大会が開催され大盛況のうちに終了しました。

当日は1,000人近くの党员党友の皆様が参加し1F(展示ホール)で行われた意見交換会にもそのまま多くの方が参加してくれました。



川口支部長として、本年度の運動方針
支部運営について総括挨拶をする。



最後の福引抽選会で
支部長賞発表



支部大会における挨拶要旨（大改革時代の中の地方自治）

平成の大合併が唱えられ、「地方分権一括法」「三位一体の改革」「地方分権推進法」が施行され、その大きな流れの中にあるのが現在の地方自治体です。国の地方制度調査会では既に、平成30年には道州制への移行を答申しております。川口も小さな考えではなく大きな視点に立ち、遠くない将来を見据えて、市民全体が政令市という目標を真剣に考えねばならない時代に来ております。

国力・国の面積がほぼ日本と同じドイツと比較して下さい。16州というそれぞれ独立した地方を形成し、その下に大きな面積を持つ市が存在しております。47都道府県を持つ日本、70市町村を持つ埼玉県と比べ、なんとスリムなのでしょう。日本の600兆といわれる負債、地方自治体の240兆といわれる負債は、世界諸国のGDPという視点から比較した場合、それは少なくないという事が明確に認識されるわけです。国と地方の役割分担の明確化、地方行政の簡素化・広域化は自ずと求められているのではあります。二元代表制（国と違って首長も議会を構成する議員も住民の直接選挙で選ばれるという点においては、首長も議会も対等であり、それぞれが市民の負託に答える責務を負っている関係）が、市民の皆様にも、益々理解される中、地方議会の果たす役割は更に大きくなって参りました。そして、現在生きている私達は、その「大改革時代」の真ただ中にあるのだということです。将来を見つめ、私の政治の大きな目標である「弱い部分に光を当てる政策」を常に見据えながら、このテーマに取り組み決意です。